

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495600452	事業の開始年月日	平成30年3月1日
		指定年月日	平成30年3月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム		
所在地	(215-0005) 神奈川県川崎市麻生区千代ヶ丘1-16-6		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年11月17日	評価結果 市町村受理日	令和4年2月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご自分のペースでゆっくり過ごしながらも、ご利用者の持っている力を維持できるように活動に参加していただいています。現在、感染症対策をした上で、施設周辺の散歩や面会を再開しています。また、ご希望のあるご家族様にはLINEやZOOMを利用した、ご家族様との面会を希望に応じて実施しております。レクリエーションの一環として職員の手作りのお菓子を不定期ではありますが提供しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年12月14日	評価機関 評価決定日	令和4年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急線「新百合ヶ丘」駅からバスで約5分乗車し、バス停「千代ヶ丘一丁目」下車、徒歩3分ほどの場所にあり、道路の向かいに保育園があり、周りは閑静な住宅街です。敷地内には広い庭と駐車場もあります。晴れた日には事業所の共有空間の居間からは富士山が眺められます。

<優れている点>

すべてにおいてマニュアルを完備してその都度改定もしています。認知症マイスターと、ケアテクニカルマイスターという独自の介護技術を認定する制度を職員が勉強することで正しい知識や技術を身に付けています。人事評価に基づいた給与体系もあり、利用者や家族は品質管理がされている介護を持って、安心して信頼できる介護を受けることができます。

<工夫点>

法人と事業所はアンケートを用いて本人や家族の意見・要望を把握するように努めています。広報誌の発行で利用者の写真や状況をこまめに伝えたり、運営推進会議から家族の意見として現在のコロナ禍の中での家族対応を検討しています。SNSやZOOMによる面会など家族の要望も実現しています。緊急事態宣言が解除された10月からは面会できる体制も可能となりました。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は作成し掲示している。実践につなげられるように日々のサービスを行っているが、共有し全員が実施できているとは言えない。	理念は「『面目躍如』お互いを思い合い笑顔あふれる楽しい生活」を目指してケアすることで、利用者が笑顔で暮らすことを到達点としています。当たり前のことができることを職員が考え、利用者がその人らしく生活ができて、生活の維持向上を図るように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は、地域交流スペースの貸し出しなどで交流があったが、現在はコロナウイルスの影響もあり交流が持ていない。	コロナ禍前は近隣の複数の保育園におもちゃを寄付をしたり、地域との連携がありました。1階には地域交流としての部屋があり、地域のボランティア活動に活用されています。	自治会に加入していますが、現在は回覧板以外の付き合いがありません。地域との協力がコロナ禍により減少しているので、これからは地域とのつながりに期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流スペースを貸し出したり、ボランティア演奏などを行っていただくことで、認知症の方との関りを持っていただいたり理解に努めていたが、現在はコロナウイルスの影響もあり行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナウイルスの影響により開催を中止している。ご家族には定期的に書面で状況はお伝えしている。	以前は集合型の運営推進会議を実施していましたが、コロナ禍の現在は、事業所の状況のほか、家族に利用者一人ひとりの写真も同封して1ヶ月の過ごし方を報告しています。運営推進会議ができない中で、動画も撮り、ネット上で事業所を可視化できる体制としています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護課など関係機関と必要時に連絡をとっている。ご家族から相談がある時に、生活保護課や障害支援課と連携して対応しているケースもある。また、認定更新手続きや認定調査の際に、調査員の方などにお伝えしている。	生活保護課、介護保険課とは頻繁に連絡を取るよう心掛けています。障害支援課から、虐待事例のある利用者の入所依頼が来た時は事業所内で話し合いを持って、困難事例を引き受けることができました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月に1度、身体拘束廃止委員会を行っている。身体拘束にあたらぬようにケアを心掛けている。身体拘束について正しく理解するよう自身でも調べている。	身体拘束委員会を3ヶ月ごとに開催し、身体拘束廃止委員会を年1回職員研修も実施しています。振り返りを検討委員会でも開催しています。確認は委員会や個別でも行い、事例を用い話し合うこともあります。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修にて学ぶ機会をもっている。職員間でも話し合い、注意し防止に努めている。研修はしたが、それだけでは学ぶ機会が少ないと思う。注意はしているが不安になることもある。	虐待防止については、マニュアルを作成しています。年に2回、虐待検討委員会を開催して虐待防止法を学んでいます。虐待防止の徹底は、自己点検振り返り検討会議事録シートを使うことで、年に2回職員が見直しできる様に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	計画作成が関係者と話し合いや対応を行っている。現状では、研修などで学ぶ機会を設けることはできていないが、個々で勉強し理解しようとしている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分にご理解をいただけるよう時間をとり、質疑応答を行いながら対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在は電話でのやり取りが主ではあるが、ご来訪の際にも、ご家族とお話しをご要望等があればお聞きしている。ご利用者については、日頃の交流の中で要望を聞き、反映できることはしている。	コロナ禍で自粛していましたが、10月から面会を再開しています。意見や要望については、即時対応を心掛けているため、窓口担当者を設定して一本化しています。1年に1回、法人独自の家族アンケートを送り運営に反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	計画作成担当者がユニット間でのミーティングや日頃のコミュニケーションの中から意見などを聞き出し、反映に繋げている。	ユニット会議の時は、業務のことや利用者のことを聞き取り、職員の個人的なことについては、面談等で個別相談を受ける態勢としています。今年度ではマニュアルの更新や職員の業務を分けることの議題について話し合い反映しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	昇給制度もあり、職場環境等の整備に努めている。	法人はストレスチェック、職員に聞き取る環境、職員の勤務状況について人事考課をする、管理者と話し合いを持つことなどで、事業所の把握をしています。介護職手当も法人と管理者の話し合いで対応し、向上心を上げられる働きやすい環境の整備をしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ケアテクニカルマイスター制度という社内資格がある。そのほかにも認知症ケアマスターという新たな社内資格も誕生しており、学ぶ機会を確保している。	法人はテクニカルマイスターという社内資格制度で職員育成を確立しています。筆記と実技試験方式で、技術向上、職員のモチベーションをあげるツールとなっています。また、認知症についても独自の社内資格制度を持っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	全職員ができてはいないが、管理者などは研修の機会も増え、社内の他事業所の職員と関われる機会が増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用前には、事前訪問にてご本人のご様子を伺ったり、お話をする時間を設けるようにしています。利用開始当初は不安なこともあるので、ご本人の話聞いて不安な気持ちを取り除けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用前の見学や、事前訪問、契約時などにお話しする時間を設け、ご家族の要望等を伺っています。また、ご希望のある家族に対してはLINEやメールでやり取りしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お話を伺ったり、事前訪問をした際に必要な支援を見極めている。また、ご利用開始後もご本人やご家族のお話を聞いたり、施設でのご様子を伺いながらサービス内容については調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭きや洗濯ものたたみなどの家事を一緒に行っている。施設での役割を持ってもらうため、当番表も作り毎日の日課としてできることを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在は、コロナウイルスの影響から面会への制限があるが、電話でお話ししていただいたりご家族との関係は大切にしている。ご本人への必要な支援については、適宜連絡をとって協力いただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルスの影響により、現在は面会や外出が制限されている状況です。電話でお話しして頂いたり現在、できることを支援している。	コロナ禍のため、制限はありますが、友人との連絡や電話の支援をしています。面会自粛の際はZOOMやSNSで家族と利用者がオンライン面会できるよう支援しました。10月からは面会も可能となり徐々に平常に戻るよう務めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	交流を持てるようにしている。気の合う方と作業を一緒にしていただいたり、複数人でお話ができるよう職員が介入したり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状況に応じて、ご家族様たちとご連絡している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナウイルスの影響により散歩や外出についての制限もあり、現在はご本人の意向を伺うだけになってしまうところもある。施設内でできることに関しては検討しできることを実行している。	利用者の日常の行動や表情の中から意向や希望を汲み取るように努めています。入居時の生活歴も参考にしています。意向を自分から伝えにくい利用者には、あまり無理強いせず、ゆっくりと傾聴し把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報以外にも、日頃の交流の中らご本人の生活歴等を聞くようにしている。極力、ご本人に聞いて理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の変化があるため、調子を見るようにしている。顔色や表情、歩き方など変化があるか注意して観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングや日々の申し送りのなかで意見等を出し合い、日々のケアにて実践し、介護計画に反映している。	本人や家族と話し合い、アセスメントを作成しています。主治医や看護師の意見も参考にし、職員と検討して作成しています。短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月の計画を立て、申し送りノートやミーティングでモニタリングし、現状に即した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には詳細を書くように意識している。そのほかに申し送りノートを使い、情報共有に努めている。個別に支援を実施しての様子や、新しい支援を実施しての状況を共有できるよう申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナウイルスの影響もあり、外出制限もある中での対応のためできていない部分もある。施設内でできることに関しては柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響もあり、できていない部分もある。地域とのかかわりがなかなか持てない状況のため、施設内でご本人が楽しめる取り組みをできるよう工夫している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2回の往診にて対応している。必要時は外部受診も行っている。	入居前からのかかりつけ医の医療機関を継続して受診できるように支援しています。協力医の訪問医が2週間に1回、歯科医は1週間に1回往診があり、利用者の受診希望に応じて往診しています。医療情報は文書や口頭で連絡があり、職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護が入る。その際に日頃の様子等を伝え、相談も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換等を行っている。退院については受け入れ態勢を整え、ご本人の状況把握のためカンファレンスに参加したり退院前に面会するなど状態把握に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の契約の際に医師確認書を作成している。管理者からの説明があり、職員全員が共有できていると思う。本人や家族の意向をふまえ、往診医、訪問看護師、介護職員が連携をとれている。	入居時に重度化対応及び看取りケアに関する指針を説明しています。看取り介護を経験しています。急変時および終末期には主治医と看護師、家族、職員が話し合い利用者にとって出来る限りの看護を行う方針を関係者間で共有し、研修も実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には必要な措置をとり医療関係に連絡を行っている。対応方法についてはフローを貼りだしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を行っている。地域との協力体制については、まだ築ききれていない。	防災・避難訓練は年2回、日中想定にて実施しています。ラジオ付き自家発電できる懐中電灯も備えています。非常災害用の食料・飲料水は備蓄し、リストも作成しています。	防災・避難訓練は、日中想定と夜間想定を含めて訓練を実施することが望まれます。訓練には、地域住民の協力を運営推進会議などを通じて呼びかけを工夫して行い、充実した訓練を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手を敬い話すよう心掛けている。対応についてもミーティングで話したり、注意したほうがいい点についてはどのように改善していくか検討している。	職員は入職時に接遇やプライバシー保護などの研修を受講しています。日頃より利用者を人生の先輩として敬い、プライバシーを損ねることがないように言葉かけを心掛けています。個人情報を含む書類は施錠のかかるキャビネットで管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定の一環とし、14時にはメニュー表の中から好きな飲みものも選んでいただくようにしている。ご本人の思いや希望を言えるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	強制するのではなく、自身でやりたいことを決めていただくようにしている。ご本人の希望に合わせ、臨機応変に動くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で選んでいただくようにしているが、季節に合った服装になるように助言はしている。お洋服が汚れてしまった際には着替えを促すなどしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	下膳や食器拭きなど片付けは一緒に行っている。食事量の減っているかたについては、ご家族協力のもと、追加でご持参いただいたおかずを提供している。	献立と食材は外部業者に委託し、職員が味付けなどの調理をし提供しています。利用者は、今日の食器やテーブル拭き、食事の号令などの当番表を黒板に貼り、役割分担にて手伝っています。誕生会やイベントにはホットケーキや綿菓子、かき氷などの特別食などでも、食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々、記録をしている。水分のなかなかとれない方については、好きな飲み物を提供したり、ゼリーを提供するなどして水分をとって頂いている。食事については、体重等も確認しながら量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に声かけし口腔ケアを実施している。訪問歯科を受けている方は定期的にクリーニングを受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつの使用はなるべくせず、トイレにて排泄できるよう誘導等を行っている。実際、入居時に日中、バルーンとオムツ対応をしていた方がいたが、現在、バルーンなしでリハパンとパットに変更になったご利用者様もいる。	排泄チェック表により、排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導の支援をしています。利用者が立ち上がったたり、座ったり落ち着きがない場合などはトイレへの声かけをしています。入居時におむつを使用していた人がリハビリパンツへ改善した事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方については、医療機関とも連携をとっている。便秘がちの方には牛乳を提供したり、水分を多くとっていただくよう支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	気乗りしない日は翌日にずらしたり、ご本人のタイミングに合わせている。	入浴は基本的には週2回です。清拭やシャワー浴など個々に合わせた対応をしています。入浴を嫌がる人には、人を変え、時を変えるなどの工夫をしています。無理強いをしないように心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に応じて休息を促したりしている。21時消灯とはしているが、ご本人の習慣に合わせてながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療関係とも連携を図りながら対応している。薬の変更時には申し送りにて職員間で共有し、状態観察等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナウイルスの影響もあり、現在は外出ができていない。役割をもっていたるために当番表にてその日の役割を分担している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在はコロナウイルスの影響もあり、行えていない。外出は12月中に再開予定。	天気が良い日には事業所の周辺を散歩しています。窓際で日光浴をする人もいます。カーテンで日差しの調節をし、心地良い空間となるよう、工夫しています。食材や小物の買い物に利用者が一緒に行く支援もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金として、お小遣いをお預かりしている。必要なものについては、ご家族と相談しながら購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様のご要望があり、ご本人が電話したくてもつなげられないケースが3件ある。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気候に合わせた温度調節を行っている。	リビングは明るく、清潔感もあり、温・湿度や換気にも配慮し、空気清浄機を設置してあります。壁面には紅葉の貼り紙を飾り、季節感を採り入れています。玄関には新型コロナウイルス対策の感染防止用の消毒液やうがい薬も用意してあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と席が近くなるように席を配置している。ソファーにてくつろいで頂くこともある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅から家具などをお持ち込みいただく方もおり、希望にあわせて対応している。	居室はクローゼット、エアコン、ベッド、整理ダンスを備え付けてあります。利用者は使い慣れたいすやタンス、テレビなどの家具を置き、家族の写真や仏壇を飾り、居心地よく暮らしています。職員と一緒に室内の清掃をする人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分でできることを行って頂いている。その際に危険のないように導線部にはものを置かないなど気を付け、職員間でも共有し、その時の状態に応じた対応している。		

事業所名	ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は作成し掲示している。実践につなげられるように日々のサービスを行っているが、共有し全員が実施できているとは言えない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は、地域交流スペースの貸し出しなどで交流があったが、現在はコロナウイルスの影響もあり交流が持てていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域交流スペースを貸し出したり、ボランティア演奏などを行っていただくことで、認知症の方との関りを持っていただいたり理解に努めていたが、現在はコロナウイルスの影響もあり行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在、コロナウイルスの影響により開催を中止している。ご家族には定期的に書面で状況はお伝えしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護課など関係機関と必要時に連絡をとっている。ご家族から相談がある時に、生活保護課と連携して対応しているケースもある。また、認定更新手続きや認定調査の際に、調査員の方などにお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月に1度、身体拘束廃止委員会を行っている。身体拘束にあたらないようにケアを心掛けている。身体拘束について正しく理解するよう自身でも調べている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修にて学ぶ機会をもっている。職員間でも話し合い、注意し防止に努めている。研修はしたが、それだけでは学ぶ機会が少ないと思う。注意はしているが不安になることもある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	計画作成が関係者と話し合いや対応を行っている。現状では、研修などで学ぶ機会を設けることはできていないが、個々で勉強し理解しようとしている職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分にご理解をいただけるよう時間をとり、質疑応答を行いながら対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在は電話でのやり取りが主ではあるが、ご来訪の際にも、ご家族とお話しをご要望があればお聞きしている。ご利用者については、日頃の交流の中で要望を聞き、反映できることはしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	計画作成担当者がユニット間でのミーティングや日頃のコミュニケーションの中から意見などを聞き出し、反映に繋げている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	昇給制度もあり、職場環境等の整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ケアテクニカルマイスター制度という社内資格がある。そのほかにも認知症ケアマスターという新たな社内資格も誕生しており、学ぶ機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	全職員ができてはいないが、管理者などは研修の機会も増え、社内の他事業所の職員と関われる機会が増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用前には、事前訪問にてご本人のご様子を伺ったり、お話をする時間を設けるようにしています。利用開始当初は不安なこともあるので、ご本人の話を聞いて不安な気持ちを取り除けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用前の見学や、事前訪問、契約時などにお話しする時間を設け、ご家族の要望等を伺っています。また、ご希望のある家族に対してはLINEやメールでやり取りしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	お話を伺ったり、事前訪問をした際に必要な支援を見極めている。また、ご利用開始後もご本人やご家族のお話を聞いたり、施設でのご様子を伺いながらサービス内容については調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭きや洗濯ものたたみなどの家事を一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在は、コロナウイルスの影響から面会への制限があるが、電話やLINEでお話ししていただいたりご家族との関係は大切にしている。ご本人への必要な支援については、適宜連絡をとって協力いただいている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウイルスの影響により、現在は面会や外出が制限されている状況です。電話でお話しして頂いたり現在、できることを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	交流を持てるようにしている。気の合う方とレクリエーションや作業を一緒にしていただいたり、複数人でお話ができるよう職員が介入したり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状況に応じて、ご家族様たちとご連絡している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナウイルスの影響により散歩や外出についての制限もあり、現在はご本人の意向を伺うだけになってしまうところもある。施設内でできることに関しては検討しできることを実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前情報以外にも、日頃の交流の中らご本人の生活歴等を聞くようにしている。極力、ご本人に聞いて理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の変化があるため、調子を見るようにしている。顔色や表情、歩き方など変化があるか注意して観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングや日々の申し送りのなかで意見等を出し合い、日々のケアにて実践し、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には詳細を書くように意識している。そのほかに申し送りノートを使い、情報共有に努めている。個別に支援を実施しての様子や、新しい支援を実施しての状況を共有できるよう申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナウイルスの影響もあり、外出制限もある中での対応のためできていない部分もある。施設内でできることに関しては柔軟に対応できるようにしている。外部事業所の訪問マッサージを利用しているご利用者が2名いる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの影響もあり、できていない部分もある。地域とのかかわりがなかなか持てない状況のため、施設内でご本人が楽しめる取り組みをできるよう工夫している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2回の往診にて対応している。必要時は外部受診も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護が入る。その際に日頃の様子等を伝え、相談も行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換等を行っている。退院については受け入れ態勢を整え、ご本人の状況把握のためカンファレンスに参加したり退院前に面会するなど状態把握に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時の契約の際に医師確認書を作成している。管理者からの説明があり、職員全員が共有できていると思う。本人や家族の意向をふまえ、往診医、訪問看護師、介護職員が連携をとれている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には必要な措置をとり医療関係に連絡を行っている。対応方法についてはフローを貼りだしている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、避難訓練を行っている。地域との協力体制については、まだ築ききれしていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手を敬い話すよう心掛けている。対応についてもミーティングで話したり、注意したほうがいい点についてはどのように改善していくか検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや希望を言えるように働きかけている。水分補給の際、甘いものを希望される方がいるときは砂糖の代わりに人工甘味料を入れて対応しているご利用者様もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	強制するのではなく、自身でやりたいことを決めていただくようにしている。ご本人の希望に合わせ、臨機応変に動くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身で選んでいただくようにしているが、季節に合った服装になるように助言はしている。お洋服が汚れてしまった際には着替えを促すなどしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器拭きなど片付けは一緒に行っている。食事量の減っているかたについては、ご家族協力のもと、追加でご持参いただいたふりかけ等を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々、記録をしている。水分のなかなかとれない方については、好きな飲み物を提供したりして水分をとって頂いている。食事については、体重等も確認しながら量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に声かけし口腔ケアを実施している。訪問歯科を受けている方は定期的にクリーニングを受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつの使用はなるべくせず、トイレにて排泄できるよう誘導等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方については、医療機関とも連携をとっている。便秘がちの方にはシャーベットを提供したり、水分を多くとっていただくよう支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	気乗りしない日は翌日にずらしたり、ご本人のタイミングに合わせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に応じて休息を促したりしている。20時消灯とはしているが、ご本人の習慣に合わせてながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療関係とも連携を図りながら対応している。薬の変更時には申し送りにて職員間で共有し、状態観察等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナウイルスの影響もあり、現在は外出ができていない。役割をもっていたるために当番表にてその日の役割を分担している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	15時台に職員とご利用者様が一対一について散歩を行っている。買い物は近くの、あまりお客で賑わっていないスーパーがあるので、できないことはないが、まだ家族同意がとれていない。取れ次第実施予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金として、お小遣いをお預かりしている。必要なものについては、ご家族と相談しながら購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人がしたいときに電話をかけることができる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	気候に合わせた温度調節を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方と席が近くなるように席を配置している。ソファにてくつろいで頂くこともある。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅から家具などをお持ち込みいただく方もおり、希望にあわせて対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分でできることを行って頂いている。その際に危険のないように導線部にはものを置かないなど気を付け、職員間でも共有し、その時の状態に応じて対応している。		

2021年度

事業所名：ヒューマンライフケア新百合ヶ丘グループホーム
 作成日：2022年2月2日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	コロナ禍ということもあり、地域との交流が自治会の回覧板のみとなっている。	コロナ禍の終息を想定して、地域交流スペースでご利用者と地域住民が交流できる企画を計画する。	将来の地域住民との交流を念頭において、利用者参加型の手作りおやつイベントを企画して実施する。	6ヶ月
2	2	コロナ禍ということもあり地域住民を絡めた避難訓練ができていない。	コロナ禍の終息を想定して、施設内で避難訓練を行う。	年2回、避難訓練を行う。その後で、地域住民の協力が必要な部分を分析する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月